



宮原良治司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行 人
カトリック福岡司教区
編集人 下町豊重
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

福岡教区内全司祭研修会 支え合い、寄り添う教会共同体作り

教区内の全司祭による研修会が熊本のホテルで行われた。今年は「性暴力・性虐待の影響について」と「自死と孤立・教会共同体にできること」をテーマに専門の講師に話してもらい、司祭としてどうあるべきかを研修した。

6月20日(火)から22日(木)まで行われた教区内司祭研修会。開会の儀として「みことばの祭儀」が行われた。用いられた福音は「あなた方も完全なものになりなさい」(マタイ5章)。しばし黙想し、聖歌の後、宮原良治司教の祝福をいただいた。



中島幸子氏

続いて2回にわたる講話があった。テーマは「性暴力・性虐待の影響について」。講師の中島幸子氏(子どもと女性の権利擁護のためのデスク、NPO 法人レジリエンス)は、「被害者は幼児から大人まで、男女を問わず対象となる。性虐待の種類も様々で、どこでも起こり得る。しかし被害者は色々な理由で口に出せないことが多い。私たちは被害者の立場になって配慮し、温かく受け入れていくことが肝心である」と熱く語った。

2017『日本カトリック平和旬間』賛同企画

平和を祈る集い

日時: 8月11日(金・山の日)
第1部 講演会 13時~15時
第2部 平和祈願ミサ 15時15分~16時15分
場所: カテドラル大名町教会 2階聖堂



『回廊ラウダート・シ』『今こそ原発の廃止を—日本のカトリック教会の問いかけ』についての講話が行われます。詳細は各小教区に配布されているポスター・チラシをご覧ください。共に平和について考え、祈りましょう。

ファティマの聖母像巡回

ファティマの聖母出現100周年を祝う今年、教皇庁大使館に寄贈されたファティマの聖母像が全国を巡回している。福岡教区では下記の日程・場所で公開される。

8月11日(金)~17日(木) カテドラル大名町教会
8月18日(金)~24日(木) 八代教会



<聖母像について>

ポルトガル・ファティマの聖母像のレプリカで木製。本物の御像の高さと同じ105cm。聖母像の目、および聖母が手にしているロザリオは水晶でできている。金色の冠には、青と白の石がはめ込まれている。

(写真提供: カトリック東京教区)

司祭達の反応は鋭く、分かち合いでは「予め観たDVD『スポットライト』が頭に浮かんだ。家庭や教会で起こり得る現実を直視し、被害者を受け入れるための心のトレーニングが必要」などと話していた。

後半の部でも2回にわたる講演を聴いた。講師は喜代永文字氏(カリタスジャパン)で、「自死と孤立・教会共同体にできること」のテーマをもとに話してもらった。「自死に至るまでには様々な心理状態が考えられる。それが表現される時の言葉遣いや様子、サインを見逃さず、適切な言葉遣いや関わりが大切。相手の気持ちに呼応する術を学ぶべきである」と教会の立場になってやさしく丁寧に語った。



喜代永文字氏

司祭たちは分かち合いの中で、「ゲートキーパー」などの耳慣れない言葉や、当事者の心理状態を詳しく学ぶことができた。電話や直接訪ねてくる人の話を傾け、受け入れ、寄り添う気持ちを培う必要を感じた。忙しさのあま

り、弱い人たちを無視するようないふことがないようにしなければ」などと話していた。二日目の夕べは懇親会。司祭たちは歌ったり、歓談しながら打ち解けた時間を過ごした。司祭同志の心が一つになるひと時であった。

三日目の最後には宮原良治司教主式の感謝ミサが行われた。司教は説教で、「いろいろな人に対するキリストの姿を思い起こし、それに真似た生き方が望まれる。父なる神に信頼し、導きを願いながら司祭としての道を歩もう」と述べた。その後昼食を共にし、三々五々司牧・宣教の地へと戻って行った。

5月25日(木)から27日(土)に駐日教皇庁大使ジョゼフ・チエノットウ大司教が熊本震災から1年を迎え、被災者と一緒に祈るために教皇フランシスコに代わり、熊本の地を訪問した。



西原村の仮設住宅で大使に握手を求める住民

各所で、「家族や大切な人を守った苦しみ、震災による避難生活を余儀なくされている方々に、教皇様とともに、心からお見舞いを申し上げます。教皇様は、皆様のことを思い、皆様のために祈り、皆様の近くにくてください。

午後、熊本県知事表敬訪問。その後、帯山教会や修道会などを訪問、共に祈りを捧げた。「こうのとりのゆりかご」で説明を聞くチエノットウ大使(奥中央)

「十分食べなさい」というだけで、体に必要なものを一つ与えないとするなら、何の役に立つでしょう。」(ヤコブ2・14~16) 私たちはあまりにもたやすく、「お祈りしましょう」という言葉で済ませていないか、気になります。もちろん心のこもった祈りはかけがえのないものです。しかし、小さくても何らかの行動ができた・できるので、反省しているところではあります。

26日午前、熊本カトリック女性の会が支援している西原村仮設住宅を訪問。大使の訪問に感動し握手を求め、印象的であった。仮設を後に、益城町で震災支援ボランティア活動中の「支援の『わ』」を訪問。大使は熱心に活動状況の説明を聞いた。

27日はイエズスの聖心病院を訪問。その後、手取教会で被災者のためのミサが捧げられた。ミサには沢山の信徒が参列した。ミサは大使の意向もあり、説教も日本語で行われ、被災者に寄り添う大使の心遣いが強く感じられた。ミサ後、昼食会、信徒との交流が行われた。その後、沢山の信徒の見送りを受けて大使は熊本の地を後にした。

生き物の世界の映像をよく見る。特に原野で活動する生き物の生態系には本当に感動する。小さな生き物から大きなものまで、生きるための知恵が発揮され、その生き方は見事なまでに感じられる。種の保存と共同生活の安定を図るための活動の様々。それらは神から与えられた本能を十分に生かしている。例えば、身の危険も顧みず、子どもを守ろうとする親の姿。どんな状況でもひたすらに親を頼りにしていく子ども。見張り役が仲間と通常とは違う声を発して危険を知らせるしぐさ。伴侶を求め、アピールする仕方など。それぞれの種の習性(生き様)は違っても、種の保存と生活の安定という目的は異ならない。これほどまでに知恵が働くものだろうか、と本能以上のものを感じてしまう。俗に、「虫にも五分の魂」と言われるが、生き物の摂理には驚きしかない▼さて、これらの生き物の支配権を頂いている「人間」はいかがなものか。万物の長として創られた「人」の営みはいかがなものか。知ること、意志すること、感情、そして良心を頂いている人間は特に神から愛されているものとして存在する。ならば、良心(神の声)に耳を傾け、理性的にうごめく人間は、より神のみ旨(お望み)を追い求め、仲間を助けがえのないものとして大切に生きていく存在であるはずだ。「私たち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。おのの善を行って隣人を喜ばせ、互いの向上に努めるべきです」(ローマ人への手紙15章)とみ言葉は強調する。(S)

教皇庁大使、熊本被災地を訪問 祈りと励ましの言葉をおくる

熊本の被災状況も管理事務所長の案内で視察。最後に開設10年目の慈恵病院の「こうのとりのゆりかご」を訪問。「いのちが神様からの贈り物として扱われていることを嬉しく思う」との言葉を述べ、蓮田大二理事長に教皇からのロザリオを贈った。

「いのちが神様からの贈り物として扱われていることを嬉しく思う」との言葉を述べ、蓮田大二理事長に教皇からのロザリオを贈った。

時の話題

難民たちと出会う

数年ぶりにイタリア・ミラノの修道院を訪れる機会に恵まれた。かつて志願院として使われていた建物は、低い扉で囲まれ、修道院とは区別されていた。そこには難民の人たちが住んでいた。修道院が「カリタス」を通して、難民たちの住居として提供するに至るまでには、共同体の中で賛否両論、激しい意見があり、この対立に結論が出たのは、「教皇フランシスコが呼びかけておられる」との発言だったという。イエスは、「あなた方によく言っておく。これらのわたしの兄弟、しかも最も小さい者の一人にしたことは、わたしにしたのである」(マタイ25・40)と言われました。聖書の中には実践の大切さについて、強烈、具体的な言葉が述べられています。「...誰かが自分は信仰を持っていると言っても、行いが伴わないなら、何の役に立つでしょう。あなた方のうち、誰かが、その人に、『安心して行きなさい』とたくさん食べなさい」

「十分食べなさい」というだけで、体に必要なものを一つ与えないとするなら、何の役に立つでしょう。」(ヤコブ2・14~16) 私たちはあまりにもたやすく、「お祈りしましょう」という言葉で済ませていないか、気になります。もちろん心のこもった祈りはかけがえのないものです。しかし、小さくても何らかの行動ができた・できるので、反省しているところではあります。

生き物の世界の映像をよく見る。特に原野で活動する生き物の生態系には本当に感動する。小さな生き物から大きなものまで、生きるための知恵が発揮され、その生き方は見事なまでに感じられる。種の保存と共同生活の安定を図るための活動の様々。それらは神から与えられた本能を十分に生かしている。例えば、身の危険も顧みず、子どもを守ろうとする親の姿。どんな状況でもひたすらに親を頼りにしていく子ども。見張り役が仲間と通常とは違う声を発して危険を知らせるしぐさ。伴侶を求め、アピールする仕方など。それぞれの種の習性(生き様)は違っても、種の保存と生活の安定という目的は異ならない。これほどまでに知恵が働くものだろうか、と本能以上のものを感じてしまう。俗に、「虫にも五分の魂」と言われるが、生き物の摂理には驚きしかない▼さて、これらの生き物の支配権を頂いている「人間」はいかがなものか。万物の長として創られた「人」の営みはいかがなものか。知ること、意志すること、感情、そして良心を頂いている人間は特に神から愛されているものとして存在する。ならば、良心(神の声)に耳を傾け、理性的にうごめく人間は、より神のみ旨(お望み)を追い求め、仲間を助けがえのないものとして大切に生きていく存在であるはずだ。「私たち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。おのの善を行って隣人を喜ばせ、互いの向上に努めるべきです」(ローマ人への手紙15章)とみ言葉は強調する。(S)



福岡教区 本部会計 2016年度会計報告

Table with financial data for the 2016 fiscal year, including income (収入), designated funds (指定献金), and expenses (支出) sections.

2016年度 会計報告

文責・青木悟神父

2016年度教区本部会計が司教顧問会で承認されましたのでご報告いたします。

①小教区分担金は、昨年度より170万円ほど増えてい

信者の方々の召命への協力の意識が高くなっているとい

から貴重な支援金を献金していただきました。

本年度は1000万円弱となりました。カテドラル(大名町

信仰を物語る②

証しとなる信仰物語

前回は、具体的な例として私の信仰物語をお話ししま

て、それぞれの出来事が人生にどれほどの影響を与えた

の思い出や気持ちの思い出しても、答えはほんの一瞬の

一証人となるからです。そして、それを聞いた人がさらに

教区本部会計は今年も3300万円の赤字決算となりま

今年2月にユスト高山右近の列福式が執り行われたが、

信仰物語は、語り手が歩んできた人生に特別な視点を提

供しています。人生を巡る出会いと出来事を回想すること

「いつ洗礼を受けましたか」と質問されると、その時

の思い出や気持ちの思い出しても、答えはほんの一瞬の

最後になりましたが、神父様方、教区の皆さま、また

今年2月にユスト高山右近の列福式が執り行われたが、



古巣神父の話に聞き入る参加者ら

レナト・フィリッピニ神父 (聖ザベリオ宣教会)

の思い出や気持ちの思い出しても、答えはほんの一瞬の

最後になりましたが、神父様方、教区の皆さま、また

今年2月にユスト高山右近の列福式が執り行われたが、

今年2月にユスト高山右近の列福式が執り行われたが、

計報

デソーザ・マリアン氏

デソーザ・ジョンソン神父(高宮教会主任/カプチン・フランシスコ修道会)のご尊

佐賀地区信徒研修会

ユスト高山右近という生き方

初夏の香りが漂う5月28日(日)、佐賀教会聖堂に

参加者は、「徳に秀でたクリシタンの生き方に触れ、霊

【奉献生活者のための黙想会】 期日：7月3日(月)17時半～10日(月)9時 指導者：染野治雄 神父(御受難修道会)

ミサ用ワイン ヴィノ デ ミサ VINO DE MISA スイートタイプ(赤)(白) ご用命 お問い合わせは 有限会社 大楠酒店

別れ・出逢い・旅立ち 草苑 (SOU-EN) カトリックのご葬儀 互助会制度もご利用できます。 木下株式会社

西日本司祭・助祭団親睦ソフトボール大会

白球を追って



福岡教区の選手団

5月22日(月)、日田(大分県)の萩尾公園ソフトボール場で、西日本司祭・助祭団親睦ソフトボール大会が行われた。晴天に恵まれ、さわやかな風に包まれて白球が飛び交った。この戦いに大阪教区大司教率いる軍団、広島教区長と高松教区長率いる合併軍団、それに大分教区長率いる軍団と鹿児島教区合併軍団、長崎教区軍団、そして福岡教区長率いる軍団の5チームの総勢90人が参戦した。福岡教区は第一試合で大阪教区とぶつかり、11対1で快勝した。二試合目は広島・高松合併チームと戦い、これも7対1で勝利した。昼食後に優勝決定戦が行われ、順調に勝ち進んだ福岡教区は難敵長崎教区チームとの戦いに挑んだ。若手選手を揃える強豪長崎教区に福岡教区の力及ばず17対8の結果に終わった。優勝は長崎教区で、福岡教区チームは準優勝であった。3試合を力投した中村彰選手、セカンドの青木悟選手のファインプレー、センターで好守備を見せた竹内英次選手、鉄壁のショート谷口尚志選手、10割をたたき出した大塚了平選手らの活躍が光った。初めて参加した新司祭は「仲間意識が強くなり、宣教・司牧にも張り合いが出てきます」と話していた。

福岡教区は第一試合で大阪教区とぶつかり、11対1で快勝した。二試合目は広島・高松合併チームと戦い、これも7対1で勝利した。昼食後に優勝決定戦が行われ、順調に勝ち進んだ福岡教区は難敵長崎教区チームとの戦いに挑んだ。若手選手を揃える強豪長崎教区に福岡教区の力及ばず17対8の結果に終わった。優勝は長崎教区で、福岡教区チームは準優勝であった。3試合を力投した中村彰選手、セカンドの青木悟選手のファインプレー、センターで好守備を見せた竹内英次選手、鉄壁のショート谷口尚志選手、10割をたたき出した大塚了平選手らの活躍が光った。初めて参加した新司祭は「仲間意識が強くなり、宣教・司牧にも張り合いが出てきます」と話していた。

報告Ⅱ糸島教会浦越未来

「みんな終わってよー？まだ。次の列に進むよー。」限界集落の村に賑やかな声が響く。6月11日(日)、熊本県阿蘇郡西原村で被災者支援と現地の方々との交流を目的とした田植えが行われた。福岡地区と熊本地区から約100人が参加した。教区震災被災者支援室では、昨年11月ボランティア受



熊本地震被災者支援 被災農家の方と共に田植え

西原村では、地域のご婦人が村の自慢のお米でつくったおにぎりを準備して参加者を迎えた。腹ごしらえをして、いざ、田んぼに。1200平方メートルの水田に約70人が一列に並び苗を植えていった。順調に育てば約500kgのお米が収穫できる。

入拠点を閉鎖した後も、定期的な会合を重ね、支援できることを模索してきた。その中で、被災者の方が田畑に出ることも出来ずに生きがいを見失っているという問題が明らかになった。そこで、被災された農家の方々と共に田植えをし、秋には収穫をして米を購入し支えていくという企画が持ち上がった。また、一方通行の援助ではなく地域の方々と交流しながら共に歩んでいきたいという思いが、今回の田植えにつながった。

九州青年キャンプ in 福岡



6月3日(土)から4日(日)、浄水通教会で九州青年キャンプが開催された。九州青年キャンプとは九州内の各教区が持ち回りで開催している青年の集いで今回は福岡教区が担当。キャンプに先立ち、5月14日には福岡地区青

参加者たちの距離がぐっと縮まったように感じられた。夕方からは分かれ合いと祈りの時間。生まれた時から今までの、自分と神様との距離を表すグラフを描きそれをもとに分かち合った。参加者からは「いろいろ話が聞け、気づきの多い時間になった」などの感想が聞かれた。その後聖堂で捧げたテゼの祈りは皆の思いと声が重なって大変美しかった。夜は交流会を開き、各地からの差し入れもいただきながら遅くまで語り合った。

地元の方々は、「こんなにもたくさんの方が来てくれて嬉しい。生きる励みになります」と語る。福岡地区からの参加者は、田植えを終えた後、高遊原巡回教会にて三位一体の祝日の

ミサを捧げ、被災者のために祈りを捧げた。森山信三神父は説教で「神の特徴は自らを与え続け、愛すること。神さまの愛に近づき、小さな愛の奉仕を続けていきましょ」と述べた。



講演で笑いを誘う樋野教授

「福岡ホスピスの会」20周年と「ぬくみカフェ」1周年記念を祝う

「福岡ホスピスの会」は主にがんに寄り添うボランティア活動の会である。一般病院・緩和ケア病棟・在宅へと活動の輪を広げ、ボランティアのスキルアップのための緩和ケア病院見学や交流会・多彩な講師による勉強会を重ね、20年の歩みを続けてきた。その間、ボランティアの立場として試行錯誤する中、順天堂大学医学部・腫瘍学教授の樋野興夫教授とのご縁を戴いた。教授から「医療者でなくても

新田原教会 聖体行列 信仰をかざして歩む



新田原教会では6月18日(日)キリストの聖体の祭りに、ミサに引き続いて聖体行列をおこなった。まず聖堂の前で子どもたちがご聖体に対して花をまき、行列は始まった。聖体に対する賛歌を歌いながら、イエス

のカタラス修道女会修道院前に設けた仮祭壇に着くと、献香と花をまきを行った。その後、隣接する新田原聖母病院の協力を得て、一行はロザリオの祈りを唱えながら病院敷地内を進み、再び教会境内に入って、テレジア館前の仮祭壇に到着した。そこでは行列に参加することができなかった信徒たちも共に聖歌を歌い、聖体を賛美する祈りを唱え、最後に司祭は聖体による祝福をおこなった。かつて行っていた行列は公道を進むかなり長い距離のものだったが、現在はたとえ短い距離とはいえ、聖体に対する私たちの信仰をかざして歩む体験は心に残るものとなるに違いない。



☆ザビエルに続く宣教師たち 神さま、なぜ日本に?

戦後、日本各地で宣教に従事されてきた11修道会、15人の神父たち……。若いころ何を思い描いて日本にやってきたのか。人生のほとんどを日本の宣教にささげた今、日本の教会に何を思っているのか。ざっくばらんな話のなかに浮かぶキリストを伝える喜び。

女子パウロ会発行 税込価格1296円 ☆キリスト教は役に立つか 来住英俊著



御受難修道会の来住英俊神父が旧約聖書から新約聖書、遠藤周作からドストエフスキー、寅さんからエヴァンゲリオンまで、幅広くエピソードを引きながら、ノン・クリスチャンの日本人にも役立つ「救いの構造」をわかりやすく解説する。クリスチャンにとっては自身のキリストとの交わりを振り返り、深めるきっかけになる。 新潮社発行 税込価格1404円

不動産全般/売買・賃貸・管理 なんでもお問い合わせください (株)ジャパン・スマイルか 代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子 〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号 TEL 092-761-8800 http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション 自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。 春日市天神山7-91 TEL&FAX 092-517-6313 福岡プライマリケア株式会社 代表:エリザベト熊谷

総合建築業 一般住宅(新築・改築工事) 鉄骨工事 RC工事 建築の事なら何でもお気軽にご相談ください 有限会社 森山工務店 ヨゼフ 森山新太郎 福岡市早良区四箇1丁目15番28号 (092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い セント・ポール FUKUOKA キリスト教書籍・信信用具・ビデオ・DVD・CD 福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F 平日/AM 10時~PM 5時40分 日・祝日/AM 11時~PM 4時(水曜日定休日) TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601 URL:http://www.pauline.or.jp

